

# 横浜みなと博物館ニュース

No.2 2024年4月1日発行



(左上) 横浜みなと博物館外観 / (右上) 企画展「関東大震災 100年 船と港から見た関東大震災」展示風景  
(左下) 再開した展示案内ボランティアによる案内風景 / (右下) 新しく導入されたガントリークレーンシミュレーター

## 特集1

### 館長就任のごあいさつ



2023(令和5)年6月より、横浜みなと博物館館長に就任いたしました伊藤友道です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当館は2009(平成21)年のリニューアルオープン以来「横浜港を知り、学び、楽しむことができる『市民のための博物館』」を使命として展

示事業、ライブラリー事業、収集・調査・保存・出版事業等の博物館活動を行ってきました。今年2024(令和6)年は開館35周年にあたります。特に展示事業のうち展示案内、そして教育普及事業には、ボランティアの皆様のお力添えを頂き、博物館の魅力向上に貢献していただいています。

一方、近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館やイベントの縮小・中止など制限の多い博物館活動となっていました。昨年より徐々に感染症が収束傾向となり、社会経済活動も元に戻りつつあります。当館でも、今年は教育普及事業の拡大やボランティアによる展示案内の時間延長など、少しずつコロナ禍前の状況に近づけてまいります。

当館のテーマでもあり、フィールドでもある横浜港は今年で開港165年となります。その歴史や仕組み、役割を記録する資料を収集、保存し、後世に伝えること、また所蔵資料を基にした展覧会や教育普及事業を行い、広く市民に還元、発信することが、これまでもこれからも当館の大切な使命です。

これまで当館へご協力いただきましたボランティアの皆様、資料寄贈者の皆様をはじめ、関係者の皆様のご期待に沿えるよう博物館事業の充実に取り組んでまいります。今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 「横浜港復旧工事写真帖」について

2023(令和5)年は1923(大正12)年の関東大震災から100年目の節目の年にあたります。当館では、8月26日から11月5日までの約2か月にわたり、企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」を開催しました。今回は、この企画展で初公開した「横浜港復旧工事写真帖」について紹介します。



写真帖表紙

### 1 横浜港復旧工事写真帖

この資料は、当館が2018(平成30)年に購入した資料で、大きさは縦18.8cm×横27.5cm、厚手の紙製の表紙がついている写真帖です。「横浜港復旧工事写真帖」というタイトルが本体に記載されている訳ではなく、中に収められている写真から学芸員が資料名を付与しました。中には57枚の写真と絵葉書が貼られています。これらは、関東大震災発生から50日後に始まった、内務省による横浜港震災復旧工事の様子を克明に写し出しています。これまで、同工事の写真は、公式な報告書である『横浜港震害復旧工事報告 附 震災救護概況』(内務省横浜土木出張所編 1929年)や『土木建築工事画報』(1925年 工事画報社)などでその一部を見ることができましたが、当館で所蔵している写真帖には、これらの書籍や雑誌と重複している写真の他にも多数の写真が収められています。

写真の多くは、工事の進捗具合から1924(大正13)年3月から5月にかけて撮影されたと推測されます。この時期は復旧工事の佳境とも言ってもよく、特に新港ふ頭での工事が急ピッチで進められていました。

### 2 横浜港復旧工事とは

横浜港の復旧工事は、政府による他の工事に比べ極めて早く着工されました。これは、横浜港が外国貿易の中心地であり、日本経済にも影響を与える港であったからにほかなりません。

横浜港震災復旧工事の中心となったのは、震災前から第三期築港工事を担当していた内務省横浜土木出張所でした。その中心人物であった所長安芸杏一あき きょういちは、復旧工

事の第一要件として急速さと耐震性の向上を掲げています。この2つを同時に満たすため、震災復旧工事では鉄筋コンクリートケーソンの導入や、岸壁修理に横棧橋方式を採用するなど、様々な工夫を凝らしています。

写真帖に収められている(写真A)は新港ふ頭9、10、11号岸壁で採用された横棧橋方式での復旧工事の様子です。9、10、11号岸壁では倒壊した岸壁を引き上げることはせず、倒壊物の上に棧橋を作り工事の速成を図りました。この写真では、土台となる橋脚の上に、ガーダー(桁)を設置しようとしています。



(写真A)横棧橋の橋脚の上に据え付けられるガーダー

(写真B)には、新港ふ頭8号岸壁にケーソンを置く様子が見えます。ケーソンとは鉄筋コンクリートで作られた大きな箱で、海中に設置後、コンクリートを流し込んで岸壁にします。これまでの方塊ほうかいを積み上げただけの岸壁では耐震性に乏しかったため、このケーソンが導入されました。ケーソンは工事の早期完成を目指すため、ふ頭内のほか、浅野造船所のドック内など港内の複数の場所で製作され、破壊された岸壁の復旧に使われました。



(写真B)8号岸壁に置かれる鉄筋コンクリートケーソン

### 3 写真帖からわかること

写真帖には、今回紹介した写真以外にも、クレーン船やプリスマン浚渫船などの作業船による工事風景や、当時としては最新技術であった水中コンクリートによる工事の状況などが収められ、当時の土木技術について知ることができます。また関東大震災によって、横浜港の港湾施設が壊滅的ともいえる被害を受けたことも同時に理解でき、横浜港に関東大震災が大きな変化をもたらした災害であることがわかる資料です。(三木 綾)

### 特集3 柳原良平アートミュージアム特集展示



「花と木と船と」展示風景

2023(令和5)年度、柳原良平アートミュージアムでは2本の特集展示を開催しました。

4月25日(火)～10月15日(日)まで開催した「花と木と船と」では、美しい花や木々を船とともに描いた作品をおよそ20点展示しました。船はもちろん花を描くことも好きだった柳原。人工の構造物である船と美しい自然の造形がコラボレーションした作品の数々を多くのお客様が静かにご覧になっていました。

本展は柳原良平アートミュージアム5周年を記念して実施しました。また、5周年記念として、3月21日(火・祝)～10月15日(日)まで、修復した水彩画「山下公園とQE2」(1983(昭和58)年)を初公開しました。

10月17日(火)～2024(令和6)年3月24日(日)まで、「街の中のRyo.デザイン」を開催しました。横浜を中心とした企業や団体向けに柳原が制作した広告デザインをおよそ40点展示しました。ありあけのハーバー、崎陽軒、もとまちユニオンなどへ提供したデザインは、みなさんもお覧になったことがあるかもしれません。お客様から「これも柳原先生の作品だったのですね」といった感想が寄せられました。本展期間中、ミュージアムショップでは展示した柳原デザインの商品を各種販売しました。

2024(令和6)年度は上半期「良平の横浜みなと・街歩き」、下半期「柳原良平の日本丸がいっぱい!展(仮称)」を開催します。お楽しみに!

(島宗美知子)



「街の中のRyo.デザイン」チラシ

### 所蔵品の紹介



1909年  
画:ウジェーヌ・ド・アルジェンス

客船ポスター メサジュリ・マリティム パリ・リオン・地中海

フランスの海運会社メサジュリ・マリティムが制作した地中海への旅行を宣伝するポスター。トルコのイスタンブール港と船が描かれています。1997(平成9)年に海外のオークション会社から購入。一昨年「世界の客船ポスター」展での展示にあたり調査を行い、描かれている船が極東航路で活躍し横浜にも入港した客船トンキンまたは姉妹船のトゥーランであることが分かりました。寸法 105.8×77.0cm。

(奥津憲聖)

### 博物館の仕事図鑑



クルーズ客船ボレアリス初入港 2023(令和5)年4月3日撮影

#### 港内撮影

当館では、横浜港の施設や出入港する船舶を撮影しています。クルーズ客船の初入港シーンや、港内での荷役作業、埋立工事の様子、港周辺の施設や建物の移り変わりは横浜港の歴史そのものです。港内撮影は当館の前身である横浜海洋科学博物館の時代から続いている、横浜港の今を記録し、後世に伝える大切な収集活動です(三木 綾)

## 展示案内

### 横浜みなと博物館 企画展

## 横浜ベイブリッジと鶴見つばさ橋 港を支える長大橋 2024(令和6)年9月14日(土)～11月10日(日)

2024(令和6)年、横浜ベイブリッジは開通35周年、鶴見つばさ橋は開通30周年を迎えます。これを記念し、2つの橋の建設から今までの歴史を写真や映像、模型などで展示し紹介します



建設中の横浜ベイブリッジ  
1988(昭和63)年

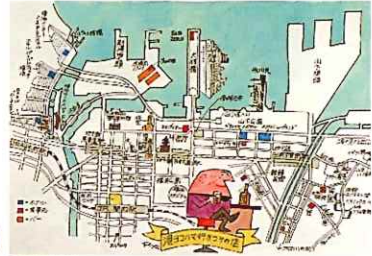
### 柳原良平アートミュージアム特集展示

## 良平の横浜みなと・街歩き

2024(令和6)年3月26日(火)～10月14日(月・祝)

水彩画 港ヨコハマ  
行きつけの店  
1995(平成7)年

柳原良平が愛した横浜の街、港を描いた作品を約20点展示します



1984-85 祝 40th 帆船日本丸記念財団設立×帆船日本丸公開

## 柳原良平の 日本丸がいっぱい！展(仮称)

2024(令和6)年10月16日(水)～2025(令和7)年5月6日(火・振休)

柳原が描いたバラエティに富んだ帆船日本丸の作品を約40点展示します

## 活動報告 -2023(令和5)年度-

### ●展示案内ボランティア再開

2023年4月、展示案内ボランティアによる展示のご案内を一部再開。

### ●教育活動ボランティア再開

2023年5月、教育活動ボランティアによる「楽しい船のおりがみ教室」を再開。

### ●柳原良平アートミュージアム特集展示

2023年4月25日～10月15日「花と木と船と」、10月17日～2024年3月24日「街の中のRyo.デザイン」開催。

●企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」開催 2023年8月26日～11月5日。関東大震災から100年目の節目の年に、救助と復興に船、港が果たした役割を約280点の資料で紹介。

●6月2日(金・開港記念日)より、常設展示新プログラム大型映像展示「横浜開港」、VRシアター「ヨコハマクルニクル～SINCE1854～」を公開

### ●「学芸員のワンポイント展示解説」実施

全5回実施。2024(令和6)年度も引き続き開催します。

### ●書籍「埋立と築港の技術と歴史」出版

横浜市港湾局編集、当財団で出版しました。

### ◆2023年度寄贈資料

2023年度は52名の方から計1,054点の資料をご寄贈いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。寄贈資料の一部は新着資料コーナーで展示しました。

## 利用案内

開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般500円、65歳以上400円、小・中・高校生200円

※帆船日本丸との共通券(一般800円、65歳以上600円、小・中・高校生300円)もございます。

※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

休館日 月曜日(祝日にあたる場合は開館し、翌日休館、ただし4/30(火)、2025年1/27(月)は特別開館)、年末年始、その他メンテナンス日

交通 JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分  
みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 徒歩5分



### 編集後記

リニューアルオープンから1年が過ぎ、私たち学芸員も新しい展示にだいぶ慣れてきました。昨夏の企画展では新収資料も展示でき、多くの方にご来場いただきました。新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、博物館の活動も少しずつ以前のように戻していければと考えています。(三木 綾)

横浜みなと博物館ニュース No.2

発行日 2024(令和6)年4月1日

編集・発行 横浜みなと博物館

〒220-0012

横浜市内西区みなとみらい2-1-1

TEL 045-221-0280

詳細はこちら

